



トップスニュース

Vol.82

2016年1月25日

加盟
団体



サンフレッチェ広島



JTサンダーズ



ワウナガレオリック



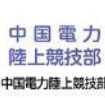
広島メイプルレッズ



広島ガス
バドミントン部



NTT西日本広島
ソフトテニスクラブ



中国電力
陸上競技部



Red Sparks



広島東洋カープ
レッドスパークス

トップス広島 事務局
〒733-0036
広島市西区観音新町4-10-2

TEL:082-233-3233
FAX:082-233-3251
URL:www.tops-h.net/

このQRコードから
公式Webサイトへ
アクセスできます。



広島東洋カープ

新入団選手入寮 華の世界に飛び込んだ若鯉たち

1月9日(土)に新入団選手7人が、廿日市市にある大野寮に入寮した。ドラフト1位の岡田明文投手(大阪商業大)は、ロサンゼルス・ドジャースに入団する前田健太投手も使用していた出世部屋である104号室に入った。その岡田投手は黒田博樹投手の著書「クオリティピッチング」を持参し、日常でも研究熱心で真面目な姿をみせた。ドラフト2位の横山弘樹投手(NTT東日本)は、かつてテレビ番組でもダンスを披露したほど好きな

「三代目 J Soul Brothers」のDVDを持参した。その他に、昨年U-18 日本代表のドラフト3位高橋樹也投手(花巻東高)、社会人チーム「王子」でチームメートだったドラフト4位船越涼太捕手(王子)、ドラフト5位西川龍馬内野手(王子)、ブラジル出身の仲尾次オスカル正樹投手(ホンダ)、今シーズンから東北楽天ゴールデンイーグルスに移籍した栗原健太内野手と同郷である青木陸内野手(山形中央高)が入寮した。

翌日の10日(日)には大野練習場で新人合同自主トレーニングが始まった。全員が初日の自主トレに参加し、新人選手全7名プロとしての第一歩を踏み出したのである。この日入寮した全員が、華の「プロ野球」という世界で輝いてくれることを願いたい。



大野寮に入寮した新入団選手7名



サンフレッチェ広島

新シーズンに向けて！

連覇を目指す2016シーズンに向け、大谷尚樹選手が熊本から復帰し新たに5選手が加入した。モンテディオ山形から移籍してきたMFキム・ボムヨン選手はフィジカルに優れたサイドプレーヤーで、豊富な運動量が特徴。FW宮吉拓実選手は、京都サンガF.C.の至宝とまで呼ばれた選手で、各年代別の日本代表にも選出された経験もある。MF長沼洋一選手はサンフレッチェ広島ユースから昇格。持ち味のスピードに乗ったドリブルに期待がかかる。

MF森島司選手は、浅野拓磨選手の出身校である四日市中央工業高校からの加入となり、得意のラストパスで先輩の浅野選手にアシストできるかにも注目だ。FWピーター・ウタカ選手は清水エスパルスから期限付き移籍で加入。身体能力やボールキープに優れた選手で、ドウグラス選手の抜けた穴を埋める存在となれるか。最後に、ロアッソ熊本への期限付き移籍から復帰したDF大谷尚輝選手。安芸郡府中町の出身で小学生からサンフレッチェ筋の彼は、きっと広島のために頑張ってくれるはずだ。

2016シーズンはJリーグとアジアチャンピオンズリーグなど日程的に厳しい戦いになるが、この6人の新戦力を生かして戦い抜いてくれることを信じている。



左から、長沼・森島・宮吉・キム選手

リーグ開幕5戦3勝2敗 今後の展開に注目

1月9日から開幕した日本ハンドボールリーグ女子。広島メイプルレッズは、1月24日(日)時点でレギュラーシーズンの12試合中5戦が終了し3勝2敗で3位。1月11日(月)の三重バイオレットアイリス戦では、高山智恵選手がリーグ通算400得点に達成した。1月23日(土)の飛騨高山戦からは昨年度で現役を引退した大前典子選手が現役復帰。悔しくも飛騨高山戦はゲームを落としたが、翌日1月24日(日)のホームゲーム、HC名古屋戦では、新人選手の青山紗弓選手や、國廣紗弥香選手(広島出身)が初得点を挙げるなど、快勝しチームの勢いを巻き返した。広島メイプルレッズは1月30日(土)に、現在4位のソニーセミコンダクタをホームゲームで迎え撃つ。今シーズンは、五輪最終予選などの影響で例年に比べ、1回戦少ない2回戦総当りでリーグ戦が行われる。レギュラーシーズン上位4チームが3月26日(土)27日(日)東京：駒沢体育館で開催されるプレーオフへの出場権を得られることから、今後の展開に目が離せない。



HC名古屋戦でシュートをする新人の國廣選手



リーグ通算400得点を達成した高山選手

第67回日本ハンドボール選手権大会 準々決勝に届かず！

12月22(火)～27(日)に愛知県・愛知県体育館と枇杷島スポーツセンターにおいて、第67回日本ハンドボール選手権大会が開催された。ワクナガレオリックは24日に行われる第3回戦で、早稲田大学と対戦した。試合は、開始50秒、早稲田大学の先制で動いた。ワクナガレオリックも前半3分に得点するも、早稲田大学からペースを奪うことができず、前半を15-19のビハインドの状態でのり返してしまふ。後半、先制したのは、ワクナガレオリック。点差を3点差に縮め、後半11分には早稲田大学を1点差にまで追い詰める。しかし、その後早稲田大学のカウンター攻撃などにより、点差を広げられてしまふ。そして、主導権を握ることができないまま、試合は31-38で敗れた。今年は悔しい結果になってしまったが、来年こそは悲願の優勝を達成してくれることを期待したい。

12/26～1/25 トップス広島 試合結果

JTサンダーズ

▽V・プレミアリーグ

1/9 JTサンダーズ ●1-3○ 東レ

1/10 JTサンダーズ ●1-3○ FC東京

広島メイプルレッズ

▽第40回日本ハンドボールリーグ レギュラーシーズン

1/16 メイプルレッズ ●14-22 ○オムロン

1/24 メイプルレッズ ○39-17 ●HC名古屋

《※広島で行われた試合のみを掲載しています。》

全国都道府県対抗男子駅伝 広島 2 位

1 月 24 日(日) 平和記念公園前発着にて「天皇盃 第 21 回全国都道府県対抗男子駅伝」が行われた。この大会は中学生(2・6 区)、高校生(1・4・5 区)、一般(3・7 区)とカテゴリー別で各都道府県を代表する選手が集ってチームが構成され、中国電力陸上競技部からは岡本直己選手が鳥取県、北魁道選手が広島県チームにて共に 3 区へ出場した。

大会は小雪が舞う非常に寒い、厳しいコンディションの中での開催となったが、無事に全チームがゴールを駆け抜け、沿道に集まった多くの方からの声援に応えた。また、岡本選手が出場した鳥取県チームは 2 区の中学生の活躍等により前半区間で上位に位置し、後半は粘りを見せ 30 位でのゴール。北選手が出場した広島県チームは、1 区から常に上位争いを繰り広げ 2 位でゴール。

優勝こそ逃したが、優勝候補に挙げられた期待に応える走りだった。



広島 3 区：北魁道選手



鳥取 3 区：岡本直己選手



三篠小学校、段原小学校でホッケー教室を開催！

1 月 12 日(火)、特定非営利活動法人トップス広島および広島市教育委員会が地域スポーツの振興を目的に開催する Do スポーツ事業の一環として、三篠小学校でホッケー教室が行われた。約 2 時間という短い時間だったが、初めてのホッケー体験に子どもたちからは多くの笑顔がうかがえた。このホッケー教室では、6 年生の児童 98 名を対象とし、シュート・ドリブル練習やチーム対抗ドリブルリレーなどが行われた。「頑張れ！」「あと少し！」など、元気な声が校庭に響いた。1 月の寒さの中、半袖の体操服を着て元気にホッケーに取り組む子供たちに元気をいただいたレッドスパイクスの選手たちにも自然と笑顔がこぼれた。

また、1 月 18 日には段原小学校でもホッケー教室が開催された。段原小学校では、5、6 年生の児童 133 名を学年で 2 組に分けて行われた。最初はランニングと体操で体をほぐし、シュート練習やパス練習にうつった。子どもたちの目はキラキラと輝いており、夢中になってホッケー教室の時間を過ごしていた。終了後、「楽しかった！」との声がたくさん聞こえ、レッドスパイクスの選手も喜んでた。

これからもホッケー活動の普及とともに、一人でも多くの方に、スポーツの楽しさ・素晴らしさを伝えていきたいと思う。



広島ガス リーグ 4 連敗 奮起期待

12 月 27 日(日)、広島市中区スポーツセンターで日本リーグ 2015 第 3 戦、ヨネックスとの試合が行われた。第 1 ダブルスの小池温子・桜井みどりペアは第 1 ゲームを落としてしまうが、第 2・第 3 ゲームともに終始相手にペースを握らせず勝利。広島ガスは幸先のいいスタートを切る。

続くシングルスは、濱北もも選手が出場。一進一退の攻防が続くが一歩及ばず敗れてしまう。勝負を託された第 2 ダブルスの奥井智菜美・平井亜紀ペアは、最終ゲームまでもつれる熱戦となるがあと 1 点が届かず勝利とはならなかった。日本リーグ 2015 はまだ続く。次戦での勝利に期待したい。



ラリーをする小池・桜井ペア



サーブを打つ濱北選手

2016年初戦 地元広島で再スタート プレーオフ進出目指して！

1月9日(土)にV・レギュラーラウンド第2Leg東レ戦が行われた。2016年の初戦を地元・広島で迎えたJTサンダーズは、第1セット、故障のため越川優選手に代わり、安井勇誠選手が活躍する。試合は接戦。1点を争う戦いは、両チーム互角のままデュースへと突入。26-25、27-26と、2度のセットポイントを手にしたJTサンダーズだったが、27-26の場面から連続3失点。一歩及ばず、27-29で第1セットを失う。第2セット、八子大輔選手のスパイクで先制点を挙げると、その後も着実に加点し見事第2セットを奪い返す。



スパイクを打つレアンドロ選手

続く第3セットは17-25、第4セットは22-25と終盤追い上げたが、逆転には至らずセットカウント1-3で敗れ、ホームの大応援団の声援に勝利で応えることはできなかった。

JTサンダーズは1月25日(月)の段階で6位につけている。上位6位までが進出できるV・ファイナルステージに向けて、これから負けられない試合が続く。見事V・ファイナルステージ進出を決めてくれることに期待したい。

連覇目指したNTT 村上・中本ペア3位

第61回全日本インドアソフトテニス選手権(個人ダブルス)が1月17日(日)に行われ、村上・中本ペアが出場した。男子選抜12ペアが参加し、予選リーグではインカレチャンピオンの挑戦を難なく退け、2連勝で1位通過し、決勝トーナメントに駒を進めた。準決勝では、今季大ブレイク中で全日本選手権も3位に入った船水・星野ペア(早稲田大学1年)に貫録の試合運びをし、勝利目前のマッチポイントまで追い込んだ。しかし大学生ペアの思い切りのいいプレーで盛り返されると、この勢いを止めることができず敗北となり、3位という結果に終わった。決勝は、船水・星野ペアが勢いのまま史上最年少優勝を飾った。この悔しさをばねに、今後の選手たちの活躍に期待したい。



インドア選手権が行われた大阪中央体育館

各チームの1推し選手を紹介します。

☆選手紹介コーナー☆



サンフレッチェ広島
茶島雄介選手

生年月日 1991年7月20日
身長 166cm
血液型 O型
出身地 広島県

↓担当者からのコメント

スピードにのったドリブルと正確なキックが持ち味。
広島出身選手として期待がかかっている。
まずはレギュラー定着を！



ロゴマークの意味

広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。